

手役・流れ重視、実力派プロの憂鬱。

麻雀界への想いが

最強戦で迸った!!

沢崎誠の手から「」が放たれた瞬間、第12回麻雀最強戦プロ大会の幕は閉じられた。

優勝は森山茂和。第9期上位以来、久々のタイトル奪取である。

長い間タイトルから遠ざかっていた森山だが、「影の実力者」として業界内部での評価が高かった。ただ、裏方に徹することが多かったため、タイトル戦に出場する機会が少なかったのだ。

現在、森山はプロリーグにも出場せず、プロ連盟の現場監督的なポジションに身を置いている。選手としての自分を犠牲にし、裏方不在と言われる麻雀界の中で、孤軍奮闘してきたのだ。「自分も選手としての思いはあるんだけどさ、誰かがやらなきゃいけないからね」

たまにタイトル戦に出場しても、頭のどこかに「裏方の発想」が残っていた。人気プロが勝つならいいが、大会が盛り上がりた方がいい。そんな思いが、対局中によきことも多かった。

しかし、森山がやってきた努力に対して、必ずしも協力的な人物ばかりではなかった。足を引っ張ろうとする者さえ、少なからず存在した。

森山はその度に正面を切って戦い、あるいは揉め事を起こした両者の間に割って入り、仲介役を買って出た。文字通り現場監督として、目を光らせてきたのである。

ここ最近の森山に、こういった心境の変化があったかはわからない。

だが森山は、今回の最強戦に一現役選手として臨んだ。予選1、2回戦と進むにつれて、その眼光は鋭さを増す。特に、予選最終5回戦での大マくりは圧巻だった。親満のアガリを機に、猛進荘を始めた安藤満。

安藤は、ここからためらわず即リーチ、そして「」をツモ。切りで三色が見える形だが、それが安藤の打法だ。先手を取って、相手にスキを与えない。

これも三色牌れだが、安藤はさらにリーチで加点。持ち点を5万点弱まで伸ばす。決勝進出は安藤とほぼ確定。誰もかそう思ったであろう。しかし、ここから森山の追撃が始まった。

2件リーチに対し、追うがけリーチ。鬼の形相で前に出る。

ツモ  ドラ  ウラ  これも三色牌れだが、安藤はさらにリーチで加点。持ち点を5万点弱まで伸ばす。決勝進出は安藤とほぼ確定。誰もかそう思ったであろう。しかし、ここから森山の追撃が始まった。

三色の高目とロン。さうい、
ここから打「」とテンパイを外し、見事12000の三色に仕上げたのだ。

ロン  ウラ  三色の連鎖。奇しくも、安藤とは正反対の手筋での大逆転劇である。スタ

イルッシュな打法を貫いた森山が、決勝進出の切符を手に入れたのだ。

これはスライルの意いだからね。安藤プロが勝てば「スライのない麻雀で勝利」となるわけだから。

だが、森山は「」も言った。

「ただ、最近の若い人は、勝つためにどう打った方がいいか」ということに、とられすぎているような気がするんだよ。そうじゃなくて「正しい打ち方をすれば勝てる」ということをわかってほしいよね。勝つから言うんだって、勝てないやつが能書きをたれて、誰も聞いてくれないからさ(笑)」

実際に森山は強い。確固たる理論も持っている。それを世間にアピールしたくなることもあったであろう。

ただ、今回森山が本気になって戦ったのは、そのような自己満足のためではない。

「ただ打つだけじゃなくなてね。ちゃんと状況・状態・流れなんかを読んでさ。」

色んなことを考えて打てば、本当に麻雀は楽しいゲームなんだよね。一般の人たちにも、その楽しさがわかってもらえたら嬉しいな」

最強位となった森山の口から出てくるのは、やはり麻雀界そして麻雀を思う言葉ばかりである。

決勝戦オラス。マンガンアガリで逆転優勝の沢崎が、

チー  ドラ  ひと鳴きでテンパイ  のテンパイを入れる。そしてその手からこぼれたツモ切りの  を、森山が捕えた。

チー  ボン   

ロン    

三ツンパイしてからの一巡一巡は長かった。あれはもの凄く長く感じたよ」

森山が優勝を決めたアガリ牌の 。それは、麻雀の神様が遣わした、幸福の鳳凰だったのかもしれない。

※文中敬称略



3回戦で森山は痛恨のラス。後に決勝で対峙する、古久根がトップ。



森山は2回戦で同じプロ連盟の強豪、沢崎・石崎と激突。2着で我慢。



5回戦で対決した森山と安藤。稀に見る混戦。トップを走る安藤。森山が見せたのは勝負師の意地...



またも無念の敗退の安藤満。5回戦、決勝進出確定と思われたが...



活躍が期待された崎見・中山の両女性プロだが、ハードルは高く...



観戦する福地と山崎。山崎は予選、惜しくも次点で決勝戦を逃している。



前最強位の長村。今回は残念ながら4次予選で敗退している。



今回もプロ最強戦は、麻雀博物館にある特設会場で開催された。



決勝の森山、渾身の仕掛け。沢崎を振り切り、自らのアガリで最強を決めた。



決勝戦。走る緊張。衆目集まる一撮。打。気が付けばベテランが3人。若手の奮起を望みたい。



実生活では「瞬間湯沸器」の異名を持つ森山。その打牌は炎のように熱かった。



古久根は最高位戦でただ一人決勝へ進出。かつてのプロ大会優勝者。



隠れた実力者ふりを発揮した沢崎。安定した強力には定評がある。



超攻撃的雀風の多井。若手唯一の決勝進出者だが最強の壁は高く...

決勝戦ダイジェスト

東1局は森山プロのメンタンツモでスタート。東2局に古久根プロがドラ3の4000オールで一步リードするも、次局多井プロに5200を放銃。さらに多井プロは3200を加算するも、東4局、森山プロのメンタンツモ裏1の4000オールで一気に形勢逆転。後半、多井プロからの満貫直撃などで沢崎プロが猛追するものの、最後は  のみで森山プロが逃げ切った。



笑顔で大会を振り返る森山。最近、団体運営に批判の声が上がっていたが「この勝利が神様の答えならいいね」